ほのぼの

第34号
平成25年
7月

発　行
神戸市須磨区戎町1－2－3
TEL.078－732－5209
信行寺門信徒会

人間とチンパンジー

住　職

チンパンジーはサルではない。人間と同じ「ヒト科」のグループです。このほかにゴリラ・オランウータンが「ヒト科」の仲間です。同じ先祖なのに進化の過程で四種になったわけです。なかでも、人間とチンパンジーは、全遺伝情報（ゲノム）の上では、一・二パーセントの差しかなく、ウマとシマウマ程度の違いだそうです。たいした違いがないことに驚きますね。

しかし、人間はチンパンジーではない。人間の赤ちゃんは仰向けの姿勢で安定していられるが、チンパンジーの赤ちゃんはそれができない。安定しておれないのは、チンパンジーは生まれた時から二十四時間ずっとお母さんにしがみついているからだそうです。

仰向けの姿勢ができる人間は、

① 親の顔と赤ちゃんの顔が向き合えるから、目と目をあわせて、微笑みを交わせられる。微笑みは、相手に対して親しみの情を示すことができます。「笑う」のは、人間の特徴だそうです。

②「声」でやりとりするようになった。赤ちゃんは泣き声を出して、離れた所にいる母親を呼び、お乳をもらう。人間の「泣き声」は「ことば」になり、さらに「文字」を持つことになった。

③手が自由に使えることから、道具を作り、使うようになった。これによって科学が発展し、人間生活は便利さと快適さを求め続けることになった。

「ことば」は、自分の心をより明確に相手に示すことができます。「ことば」は、声に出すだけなら、その時だけで消えてしまいがちです。「文字」は、「ことば」を記録してより広い範囲の人々に、また次の代の人々にも伝えることができます。

「ことば」は、こころを伝えます。概念もこしらえます。人間の思考は「ことば」によります。だから、「ことば」によって救われ、「ことば」によって悩むのが人間です。

阿弥陀さまのことばは、わたしたちの現在・過去・未来を照らしだしてくださる光です。

ここに阿弥陀さまの光に照らされて人生を過ごされた人のことばがあります。世界的な自然科学者であって、しかも念仏者として人々を導かれた東昇先生のことばです。

◎「私が生まれてはじめて聞いた人間のことばは、母が称えるお念仏の声でした。

私がはじめて見た母の姿は、お仏壇の前で、合掌した母の姿でした」

◎「人間が豊かに生きて、真の幸せをいただくとは、死の問題が解決されることです。

科学では、死の問題は絶対解決できません。

私自身の死と対面したとき、人間の力で得たものは、すべて消えてしまいます。

力となるのは、ただ念仏だけです」

と述べられています。こころに留めてください。

人間はチンパンジーではありません。

濱畑先生の法話を聴聞して

多田　文男

五月二十五日信行寺永代経法要の法話は、天岸浄円先生の予定でしたが、ご病気の為お弟子様の濱畑慧憭先生が務められました。先生は天岸先生に代わって法話をする事をたいへん恐縮がっていらっしゃいました。それは天岸先生や、その師にあたられる梯先生が身を粉にして御仏の教えを説いておられる、浄土真宗にはかけがえのない先生方であると、常々尊敬されているからのようです。また、浄土真宗が七百五十年続いてきたのは、親鸞さま以来、こういう多くの師の命がけの説法に支えられてきたお蔭であるという考えも示されました。

休憩後の後半には、親鸞聖人が八十八歳の時に書かれたお手紙を紹介されました。その内容から、「万物に不変はなく、人の命も同様に明日をも知れぬ無常のものである。さればこそ、今生きているかけがえのない個々の命を大切にしなければいけない。」という教えを説いていただきました。

若々しくよく響くお声で、本当に解り易く教えていただきました。法話を聴聞する度に賢くなったつもりが、すぐ忘れてしまうという繰り返しですが、濱畑先生の凛々しいお姿と熱にこもった教えは、私の心に沁みわたったような気がします。よくよく考えてみますと、本当に明日この身に、何が起こってもおかしくない世界を生きています。にもかかわらず、今この時を大事にできない。大事にする仕方が解らない。「今を大切に生きる」というのは大変難しいことです。しかし、それを頭に入れながら行動できる時間を一瞬でも多くしていかねばならないと思いました。

法話終了後、先生は門信徒の皆さんとお斎をご一緒され、帰って行かれました。細い体に大きなカバンを背負って、何度も深くお辞儀をしながら帰って行かれるお姿を拝見し、温かいお人柄を垣間見る思いでした。また機会があれば是非、先生の法話を聴聞させていただきたいと思います。

永代経ってどんなお経ですか？

副住職

永代経というお経があると思っている方もおられるかもしれませんが、永代経は「永代読経」の略で「末永く（永代に）お経が読まれる」という意味です。亡くなられた方などをご縁にして財物を進納することによって、お経が読経されることをいいます。お経を読むというのは真宗では故人への追善供養を意味するのではありません。故人を偲ぶご縁のなかに、お経として説かれている真実の言葉をよりどころとして生きる人生が私たちに開けるなら、それこそ亡くなられた方の真実の願いを実現することに繋がるのです。

お念仏の教えが私たちに伝えられるまでにどれだけのご先祖さまの願いがあったでしょう。親鸞聖人から七百五十年ものあいだ人から人へ阿弥陀様の本願という尊い願いが伝えられてきた事実はすごいことだと思います。「お寺が存続し、仏教が繁盛しつづけますように」という願いが永代経の心です。そうした願いと志を持って、ある程度まとまったお金や、仏具などをお寺に納めるのが「永代経懇志」であり、その報恩の行為を受けて、お寺が開く法要が「永代経法要」です。

（参考文献：新仏事のイロハ）

温かい心のこもった「花まつりバザー」となりました！

米田悦子

東日本大震災の番組を見て、福島の子供達が震災以前のように健康的な生活が送れていないこと、また放射能の汚染による不安があり今でも外で自由に遊べていないことを知り、同じ年頃の子を持つ者として、「何か出来ることをしたい！」と感じました。

四月七日、お釈迦さまの誕生日である「花まつり」の前日に護法会と合わせ「信行寺こども会」として、何かできないかと考え、我が家のこども達と話し合い、募金ならできるかな？ということになりました。

また、折角なら大人も協力して家庭にある不要品をそれぞれ出し合い、必要な方に買ってもらうバザーをすることにしました。

そこで皆様にお願いしましたら、多くの方から品物を寄付して頂きました。なかには思い出の小物があったり、懐かしい捨てられない物など貴重な物がありました。それらは喜んでいろんな人に買ってもらい大事にされていると思います。

また当日は、副住職の法話会に集うメンバーが中心になり、お餅入りの野菜スープを作って販売したり、有志の方々の手作りのクッキーやパン、和服をリフォームしたバックなどが並びどれも大好評でした。

おかげさまで十万三千七百六十円の売り上げとなり、全額を沖縄、久米島にある福島の子供達のための健康保養施設に送らせて頂きました。ひとりでも多くの児童がこのプログラムに参加して、健康な身心を取り戻してほしいと願っております。何かに役に立つことが出来たという、喜びにあふれた尊い一日となったことに感謝し、協力して下さった皆さまに心よりお礼を申し上げます。

鈴木福男さんの『二河白道』出展！

日本美術家連盟の老いも若きジャンルを超えて、３４８人の作家が集う『きのうとあすの対話Ⅱ』展が、王子公園近くの『原田の森ギャラリー』で開催され、神戸新聞にも掲載されました。

多彩なる作品が一堂に並び、それぞれエネルギーに溢れ素晴らしい展覧会でした。

信行寺の本堂に寄贈されています鈴木福男さん作「二河白道」の油絵も出展され、その深淵なる作風はその中でもひときわ光りをはなっておりました。鈴木さんのこれからの益々のご発展を心より応援し、期待しております。

仏様のご縁にあって

清見雅史

✧ 浄土真宗とのご縁

昔から親鸞聖人に興味がありましたので岩波文庫の「歎異抄」を何度も何度も読んでいました。しかしこれは浄土真宗のご縁ではなく教養にとどまるものでした。そんな中、平成二十一年の五月に、父が突然亡くなりました。母せつ子（法名釋清法）はご縁があって神戸別院へ良く聴聞させていただいていたので、父の葬儀には神戸別院からのお勤めをお願いしました。このことが浄土真宗そして親鸞さんとのご縁となったわけです。

✧ 信行寺さんとのご縁

神戸別院の毎月十六日の常例法座に聴聞させていただく度に正信偈の素晴らしさに感動するようになり、真宗のお勉強をもっとしたいと思うようになりました。信行寺さんも母からのご縁でした。

月に三度の護法会法座、佛教講座、定例聞法と季節ごとの各法要に聴聞をさせて頂いています。教行証文類などのご聖教を順序立ててお話し頂き大変ありがたいことと思っています。初めは何を聞いてもよく解らず戸惑いました。お陰様で近頃は、法話の意味は理解できないまでも少しは質問できる程度になりました。

✧ **十八願成就文のおあじわい**

短念仏・回向（和訳）の「恩徳讃」に続いてありますご文こそ第十八願成就文を意訳されたものであることを最近、特にありがたく頂いています。

「聞其名号」は、「ほとけのみ名を聞きひらき」、「信心歓喜」は、「こよなき信をめぐまれて　歓ぶこころ身に得れば」、「願生彼国即得往生」は、「さとりかならずさだまらん」とやさしい言葉で語りかけていただいています。今ではこの回向文が礼拝時の憶念となっています。今までもずっとお称えしてきたご文ですが、機が熟さなければおあじわいまでにいたらないことも知りました。その意味で毎朝のお勤めとともに「浄土真宗のみ教え」を必ず拝読させていただいています。

南無阿弥陀佛

自然農　一年生

副住職

新しいことを学ぶ時はいつもわくわく楽しいものです。

この度、以前から気になっていた「自然農」でお米作りを経験させていただくご縁をいただきました。土を耕さず、水もやらず、雑草もある程度刈る程度で、もちろん農薬や肥料もなしの農法と聞いて、「ほんとうにそんなやり方で野菜やお米がちゃんとできるのだろうか？」と半信半疑でした。でも、先日、苗代に蒔いたお米は雨水だけで芽ぶき、すくすくと成長しています。自然農を紹介した文章には、こうあります。「多くの草や虫たちが生き生きと躍動するなかでお米は初々しい芽を出して伸びやかに育ち、梅雨を迎えるころ田植えとなります。草の中に植えられたひ弱な苗はやがて逞しく根を張って身体をつくり、夏の終わりに美しい花を咲かせ、秋には豊かな実を結びます。お米は、耕さず、草や虫を敵とせず、農薬・肥料を用いない田園のなかで多くのいのちと共に健やかに育ってゆきます。そこには神妙で厳かなるいのちの世界が営まれています。人もまた出会いのなかで次のいのちを紡ぎ織りなし、慈しみ育みあいながら尊きいのちを自ずから生きていることを知ります。」

私たちの身体は水、お米や野菜などの食物をとることによって成り立っています。そしてそれらは大地によってできるということを頭では理解しているつもりでも、実際に農作業を通して実感される世界は、また別もののように思います。今回のご縁で一年を通して身近にそのことを実感できたら、と思っています。人間の手をできるだけ加えず、自然の力に任せていくという自然農。「愛情かけて見守るのだけれど、手をかけすぎない。子供を育てるのと似ているのではないですかね。」八年間、自然農を続けている友人の言葉です。

越後や関東の農村に縁が深かった親鸞聖人もきっと、そんな田園風景を見ながら大地の恵みに感謝しつつ、念仏を喜ばれたのではないでしょうか。

信行寺行事予定とご案内

本堂納骨お盆法要

八月十六日（金）
午後二時より　本堂にて

夏期特別法座

八月十七日（土）
午前十一時から午後三時
信行寺　本堂・礼拝堂にて

秋の彼岸法要

九月二十八日(土)　森田真円先生
二十九日(日)　住職
両日とも二時より　本堂にて

西大谷納骨参拝

十月二十日（日）
バスでご一緒いたしますので
ご参加希望の方はお早めに
お寺にお問い合わせください。

編集後記

「お田植え歌」

♪ あみだ様の御恩をこめた苗代に
♪ おすがりしますの種を植え
♪ たゆまぬ念仏という水を流し
♪ 極楽往生の秋を迎えれば
♪ この実をとることのうれしさよ
♪ なもあみだぶつ

農民たちは親鸞さまの教えの歌を唄いながら米作りをし、自然に阿弥陀様のお慈悲のこころを体の中にしみこませていったのでしょうね。

そのお米の文化で育って来た私たち。お米をいただける有り難さや大切に思う気持ちは、古代から受け継がれてきた念仏の教えが体の中に宿っているからなのではないでしょうか。

多田　清子